

No.24

2004年10月発行

淀川水系 流域委員会 淀川部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第24回淀川部会の内容……………P. 1
- 第24回淀川部会の説明資料より抜粋……………P. 3
- 配付資料リスト……………P. 7
- 淀川部会 委員リスト……………P. 8
- これまで開催された会議等について……………P. 9
- 配付資料及び提言の閲覧・入手方法・ご意見受付……………P. 10

平成16年8月25日（水）、第24回淀川部会が行われました。



第24回淀川部会では、川上ダムについて議論が行われました。

【写真：平成16年8月3日（火）、川上ダム現地視察】

第24回淀川部会の内容

川上ダムサブWGでの検討経過の報告が行われた後、資料「川上ダムの効果について」をもとに、3つの論点について委員との意見交換が行われました。

第24回淀川部会結果概要

庶務作成

開催日時：2004年8月25日（水） 13：00～16：15
場 所：京都リサーチパーク 地階 バズホール
参加者数：委員11名、河川管理者30名、一般傍聴者93名

1 審議の概要

①川上ダムについて

榎屋リーダーより、川上ダムサブWGでの検討経過の報告が行われた後、資料1-3「川上ダムの効果について」を参考にしながら、3つの論点について議論が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

○論点1 対象降雨

対象降雨として、昭和28年（5313降雨）の実績降雨と昭和40年（6524降雨）の引き延ばし降雨の2ケースを用いて、川上ダムの浸水被害軽減効果の検討を行っているが、実績降雨で検討を進めるべきだ。

←319mmという実績降雨はあるが、最大の洪水流量をもたらした降雨は299mmである。実績としては319mmだが、たまたま集中的な降雨ではなかった。しかし、昭和40年24号のような集中的な降り方がないとは言えない。計画をしていく上で、299mmや319mmといった実績降雨を1つのベースに計画降雨として考えたが、降り方によって流出量は違ってくるため、このような条件も勘案しどう守っていくのかまで考えなければならない。実績降雨だけの対応では、それ以外の降雨パターンには対応できないのではないかと。これを考慮して、当流域に大きな洪水をもたらした上位10件の洪水と降り方を考慮して、計画降雨としては299mmを前提に、実績の降雨パターンをそこまで引き上げてシミュレーションしていくべきではないかという考え方で説明した。（河川管理者）

・5313降雨の降雨確率は1/27年と算出されているが、これを2004年までの実績で、再度、算出し直して欲しい。おそらく、より安全な数値になるだろう。

・さまざまな降雨パターンを検討しなければならないのは理解できるが、引き延ばし降雨がダムの規模を算出するための対象降雨となるなら、その妥当性について考えておく必要がある。河川管理者の説明で十分だとは思えない。ダムの効果を示すために引き延ばし降雨を採用したかのような説明では、説得力がない。こういった資料の出し方には、疑問を覚える。

←説明したような計画降雨や対象といった考え方はダムを前提には一切考えていない。下流のために岩倉峡は開削できないという条件の中で、上野地域の治水対策を考えたときに、やはり過大評価はいけませんが、今までの実績降雨や雨の降り方を考慮しながら、

299mmや最大雨量の319mmといった雨が降った場合に当地域を浸水被害から守っていかなければならないという考えである。（河川管理者）

○論点2 浸水被害の評価基準

浸水被害の程度を評価する際には、家屋の浸水戸数と浸水深だけでは不十分だ。他にどのような判断基準が考えられるのか、議論をすべきだ。

・資料1-3の氾濫解析では、45cmを境に床上・床下浸水を区分けしているが、床上・床下の区別が、人命被害の有無を判断する目安に成り得るのだろうか。他にも、流速や傾斜角も判断基準の1つだと考えられるが、河川管理者は人命被害の判断基準を持っているのか。

←氾濫解析の際には、流速も勘案して計算を行っているが、流速を人命被害に結びつけることまでは行っていない。現在のところは、浸水戸数、浸水深、浸水面積以外に思いつかない（河川管理者）。

←床上・床下浸水の評価基準である45cmという数値は、治水効果を検討する際のマニュアルで定められた数値であり、これに基づいて検討を行った。また、浸水の継続時間は、浸水が発生してから水が引くまでの時間を計測すればよいので、示すことは可能だ（河川管理者）。

・被害額の算定方法や基準については、資料を提出して、説明して頂きたい。

・浸水被害を評価するための要素として、家屋以外の評価も考えていかなければならない。被害の評価要素をより具体化していく必要があるだろう。浸水面積についても、水田、宅地、工場等の分類を考慮した、よりわかりやすい資料を作ることはできる。

○論点3 破堤開始水位

破堤開始水位として、①計画堤防高一余裕高 ②計画堤防天端高 ③破堤しない（越水する）の3ケースを用いて検討されている。各ケースを実現するための条件を検討していくべきだ。

・破堤するか、しないかによって、検討結果が大きく違っている。特に、③破堤しないケースを上野地区で実現するための条件が非常に重要になってくる。

・破堤による壊滅的な被害の回避を、貯留施設に頼らずに実現するというのが、流域委員会の提言だった。つまり、最大目標である破堤の回避を実現するために、ダムに頼らずに、どういった整備をどの程度実施すればよいのか、ここが一番のポイントになる。ダムの是非を審議する際には、こういった可能性について示してもらわなければならない。

・これまでの検討は、従来の堤防補強の延長でしかない。現在の堤防には欠陥があり、きちんと検証していかないといけない時期に来ている。

・ダムの是非とは関係なく、破堤しないように堤防を強化するのは当然のことだ。住民は「堤防があるから安全」と思っており、最低限、この住民の一般的な考え方に追いつくよう努力をしていかなければならない。にもかかわらず、河川管理者がいまだに破堤を前提に検討しているというのは、非常に残念だ。本来であれば、破堤を回避できる堤防の工法を確立した上で、審議をしたい。これは、国交省の最大の課題だと思っている。河川管理者は、破堤しない堤防を実現するための条件を検討して、結果を示して欲しい。また、あらゆる対策で考えて、それぞれの労力と費用と効果を、場所ごとに示して欲しい。

- 2 一般傍聴者からの意見聴取
一般傍聴者1名より発言があった。主な意見は以下の通り。
・資料1-2 P10に河川管理者の検討フローが示されているが、このフローの前提条件として、破堤開始水位を明確にした上で付け加えて欲しい。また、堤防強化のコストを強化レベルごとに示して欲しい。
- 3 その他
庶務より、資料4を用いて、次回部会の開催日について説明があった。その後、部会長より、今後も月1回程度、部会を開催していきたいとの説明が付け加えられた。

以上

※議事内容の詳細については「議事録」をご確認ください。最新の結果報告及び議事録は、ホームページに掲載しております。

第24回淀川部会の資料より抜粋

第24回淀川部会では、資料1-3「川上ダムの効果について」をもとに、委員間で意見交換が行われました。以下に、資料より一部を抜粋して掲載いたします。

資料1-3より

3. 2 計算条件

川上ダムによる上野地区の浸水被害軽減効果を以下の条件で算出する。

- ① 岩倉峡：現況（開削なし）
- ② 河道 直轄区間：計画堤防、現況河床
県区間：現況堤防、現況河床
- ③ 上野遊水地
上野遊水地：完成済み
越流堤：C3-4（越流堤高136.6m、越流堤長4,000m）
越流堤諸元の根拠：表3-①に示すとおり、既往の上位10洪水の氾濫量の合計が最小となる越流堤の高さと延長（C3-4）を選定した。
（この抜粋では表3-①は省略）
- ④ 川上ダムの洪水調節容量
川上ダムの洪水調節容量は1,450万 m^3 と仮定する。（川上ダムの現計画）
- ⑤ 川上ダムの放流量
150 m^3/s 一定放流（計画河道での放流可能量（川上ダムの現計画））

⑥ 対象降雨

対象降雨は以下の2ケースとする。各降雨の概要は表3-②に示す。

- 1) 昭和28年13号台風（5313降雨）：島ヶ原地点での最大の流量をもたらす実績降雨。
- 2) 昭和40年24号台風（6524降雨）：昭和28年13号台風の総雨量まで降雨量を引延ばすと被害が最大になる降雨。

表3-② 洪水の概要

洪水名	略称	総雨量 (mm)	降雨確率	島ヶ原 ピーク流量 (m^3/s) (注)	降雨引延し 倍率	計算に使用 する雨量 (mm)
昭和28年 13号台風	5313 降雨	299	1/27年	3,054	1倍	299
昭和40年 24号台風	6524 降雨	205	1/5年	2,162	1.46倍	299

- (注) 1. 降雨確率は、島ヶ原地点上流の明治23年～昭和40年の降雨データで作成した確率計算式より算出した。
2. 島ヶ原ピーク流量は、現在の河道で、上流の氾濫を考慮に入れた島ヶ原地点での到達流量である。

⑦ 破堤開始水位

以下の3ケースで計算する。

- 1) 計画堤防高一余裕高
- 2) 計画堤防天端破堤
- 3) 破堤しない（計画堤防天端で越水）

⑧ 直轄区間の流量

伊賀流域での降雨量から直轄区間上流端での流入量を予測する解析プログラム（上流の県区間で氾濫した洪水を含む過去の洪水実績に基づき作成）により算出する。

3. 4 検討ケース

表3-③ 検討ケース (注) 赤字は氾濫あり

対象降雨	堤防天端一余裕高で 破堤	堤防天端で破堤	堤防天端で越水
昭和28年9月 13号台風 (5313降雨)	①ダムなし	①ダムなし	①ダムなし
	②ダムあり (150 m^3/s 一定放流)	②ダムあり (150 m^3/s 一定放流)	②ダムあり (150 m^3/s 一定放流)
昭和40年9月 24号台風 (6524降雨)	①ダムなし	①ダムなし	①ダムなし
	②ダムあり (150 m^3/s 一定放流)	②ダムあり (150 m^3/s 一定放流)	②ダムあり (150 m^3/s 一定放流)

対象降雨：昭和28年13号台風（5313降雨）
破堤条件：堤防破堤一余裕高で破堤

	ダムなし	ダムあり (150m ³ /s放流)	効果
氾濫量（千m ³ ）	1,235	421	814
氾濫面積（ha）	90	61	29
床下浸水戸数（戸）	111	106	5
床上浸水戸数（戸）	107	84	23
木津川（58.2k）水位（m）	136.9	136.8	0.1

※ 柘植川、服部川合流部の霞堤付近の浸水被害は計上していない。
※ 床上・床下浸水被害の考え方（被害・浸水深）床上浸水・45cm未満、床上浸水・45cm以上。

対象降雨昭和28年13号（5313降雨）
破堤条件：堤防天端破堤

	ダムなし	ダムあり (150m ³ /s放流)	効果
氾濫量（千m ³ ）	0	0	0
氾濫面積（ha）	0	0	0
床下浸水戸数（戸）	0	0	0
床上浸水戸数（戸）	0	0	0
木津川（58.2k）水位（m）	136.9	136.8	0.1

※ 柘植川、服部川合流部の霞堤付近の浸水被害は計上していない。
※ 床上・床下浸水被害の考え方（被害・浸水深）床上浸水・45cm未満、床上浸水・45cm以上。

対象降雨昭和28年13号（5313降雨）
破堤条件：堤防天端越水（破堤なし）

	ダムなし	ダムあり (150m ³ /s放流)	効果
氾濫量（千m ³ ）	0	0	0
氾濫面積（ha）	0	0	0
床下浸水戸数（戸）	0	0	0
床上浸水戸数（戸）	0	0	0
木津川（58.2k）水位（m）	136.9	136.8	0.1

※ 柘植川、服部川合流部の霞堤付近の浸水被害は計上していない。
※ 床上・床下浸水被害の考え方（被害・浸水深）床上浸水・45cm未満、床上浸水・45cm以上。

対象降雨：昭和40年24号台風（6524降雨）
破堤条件：堤防天端一余裕高で破堤

	ダムなし	ダムあり (150m ³ /s放流)	効果
氾濫量（千m ³ ）	10,366	6,321	4,045
氾濫面積（ha）	354	298	56
床下浸水戸数（戸）	218	125	93
床上浸水戸数（戸）	934	824	110
木津川（58.2k）水位（m）	137.8	137.2	0.6

※ 柘植川、服部川合流部の霞堤付近の浸水被害は計上していない。
※ 床上・床下浸水被害の考え方（被害・浸水深）床上浸水・45cm未満、床上浸水・45cm以上。

対象降雨昭和40年24号（6524降雨）
破堤条件：堤防天端破堤

	ダムなし	ダムあり (150m ³ /s放流)	効果
氾濫量（千m ³ ）	4,955	0	4,955
氾濫面積（ha）	187	0	187
床下浸水戸数（戸）	52	0	52
床上浸水戸数（戸）	750	0	750
木津川（58.2k）水位（m）	138.4	138.0	0.6

※ 柘植川、服部川合流部の霞堤付近の浸水被害は計上していない。
※ 床上・床下浸水被害の考え方（被害・浸水深）床上浸水・45cm未満、床上浸水・45cm以上。

対象降雨昭和40年24号（6524降雨）
破堤条件：堤防天端越水（破堤なし）

	ダムなし	ダムあり (150m ³ /s放流)	効果
氾濫量（千m ³ ）	1,559	0	1,559
氾濫面積（ha）	136	0	136
床下浸水戸数（戸）	117	0	117
床上浸水戸数（戸）	417	0	417
木津川（58.2k）水位（m）	138.6	138.0	0.6

※ 柘植川、服部川合流部の霞堤付近の浸水被害は計上していない。
※ 床上・床下浸水被害の考え方（被害・浸水深）床上浸水・45cm未満、床上浸水・45cm以上。

配付資料リスト

●第24回淀川部会 配布資料

資料リスト		資料請求 No
議事次第		Y24-A
資料1-1	川上ダム計画に関する調査検討の説明状況 ※第1回ダムWG (H16. 7. 11) 提出資料	Y24-B
資料1-2	川上ダム計画に関する調査検討 (中間報告) ※第1回ダムWG (H16. 7. 11) 提出資料	Y24-C
資料1-3	川上ダムの効果について ※第4回ダムWG (H16. 8. 19) 提出資料	Y24-D
資料1-4	川上ダムサブWG (第1回) 現地視察説明資料 ※第1回川上ダムWG (H16. 8. 3) 提出資料の一部を抜粋したもの	Y24-E
資料2-1	河川整備計画進捗状況 (実施) (調査・検討) 報告項目	Y24-F
資料2-2	河川整備計画進捗 (調査・検討、実施) に係る委員からの意見	Y24-G
資料3	委員会における今後のスケジュール	Y24-H

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP. 10の「当日資料の閲覧・入手方法」をご覧ください。

淀川部会 委員リスト

2004. 8. 26現在
(五十音順、敬称略)

No.	氏名	対象分野	所属等	備考 (兼任)
1	有馬 忠雄	植物	大阪府 自然環境保全指導員	環境・利用部会 住民参加部会
2	今本 博健	洪水防御 (河川工学、水理学)	京都大学 名誉教授	治水部会 利水部会
3	大手 桂二	砂防	京都府立大学 名誉教授	治水部会
4	荻野 芳彦	農業関係 (農業水利)	大阪府立大学大学院 農学生命科学研究科 教授	利水部会 住民参加部会
5	川上 聡	地域の特性に詳しい委員 (水環境保全ネットワーク・ 市民活動)	NPO法人 全国水環境交流会 理事 木津川源流研究所 所長	環境・利用部会 利水部会 住民参加部会
6	紀平 肇	動物	中間法人 水生生物保全研究会 理事	環境・利用部会
7	小竹 武	地域の特性に詳しい委員	大阪市立十三中学校 校医、 小竹医院 院長、 淀川ネイチャークラブ 会長	住民参加部会
8	田中 真澄	地域の特性に詳しい委員 (自然哲学)	岩屋山志明院 住職 鴨川の自然をはぐくむ会 代表 市民投票の会 共同代表	環境・利用部会 住民参加部会
9	谷田 一三	動物 (河川生態学、昆虫分類系統学)	大阪府立大学総合科学部 教授	環境・利用部会
10	田村 悦一	法律 (行政法)	京都橘女子大学文化政策学部 教授 立命館大学 名誉教授	住民参加部会
11	塚本 明正	地域の特性に詳しい委員 (幅広い分野の人のネット とコーディネイト)	子どもと川とまちのフォーラム 副代表	住民参加部会
12	寺田 武彦 (部会長)	法律	弁護士 日弁連公害対策・環境保全委員会 元委員長	利水部会 住民参加部会
13	原田 泰志	漁業関係	三重大学生物資源学部 教授	環境・利用部会
14	槇村 久子	地域・まちづくり (地域計画・景観文化論)	京都女子大学現代社会学部 教授 (社)なら女性フォーラム 副理事長	環境・利用部会 利水部会
15	榊屋 正 (部会長代理)	地域の特性に詳しい委員	地球環境関西フォーラム 事務総長	環境・利用部会 治水部会 利水部会
16	山本 範子	地域の特性に詳しい委員	流域住民	環境・利用部会 治水部会
17	和田 英太郎	水質 (同位体生態学)	地球環境フロンティア研究センター プログラムディレクター	環境・利用部会
18	渡辺 賢二	水環境	上桂川漁業協同組合 元事務局長	環境・利用部会

注：対象分野欄の () は委員の専門を示しています。

これまで開催された会議等について

第24回淀川部会（平成16年8月25日）までに、以下の会議が開催されています。

委員会		琵琶湖部会		淀川部会		猪名川部会	
第1回 ~第6回	平成13年開催	第1回 ~第8回	平成13年開催	第1回 ~第10回	平成13年開催	第1回 ~第6回	平成13年開催
第7回 ~第15回	平成14年開催	第9回 ~第20回	平成14年開催	第11回 ~第20回	平成14年開催	第7回 ~第17回	平成14年開催
第16回	H15/1/17 (金)	第21回	H15/1/29 (水)				
第17回	H15/1/24 (金)	第22回	H15/5/19 (月)	第21回	H15/7/5 (土)	第18回	H15/7/1 (火)
第18回	H15/2/24 (月)	第23回	H15/6/10 (火)				
第19回	H15/3/27 (木)	第24回	H15/7/18 (金)	第22回	H15/8/26 (火)	第19回	H15/9/2 (火)
第20回	H15/4/21 (月)	第25回	H15/8/25 (月)				
第21回	H15/5/16 (金)	第26回	H15/9/24 (水)	第23回	H15/10/13 (月)	第20回	H15/10/9 (木)
		第27回	H15/10/23 (木)				
		環境・利用部会		治水部会		利水部会	
第22回	H15/6/20 (金)	第1回	H15/3/8 (土)	第1回	H15/3/8 (土)	第1回	H15/3/8 (土)
第23回	H15/7/12 (土)	第2回	H15/3/27 (木)	第2回	H15/3/27 (木)	第2回	H15/3/27 (木)
第24回	H15/9/5 (金)	第3回	H15/4/10 (木)	第3回	H15/4/10 (木)	第3回	H15/4/14 (月)
第25回	H15/9/30 (火)	第4回	H15/4/17 (木)	第4回	H15/4/14 (月)	第4回	H15/9/2 (火)
第26回	H15/10/29 (水)	第5回	H15/5/29 (木)	第5回	H15/8/25 (月)	第5回	H15/10/24 (金)
第27回	H15/12/9 (火)	第6回	H15/8/25 (月)	第6回	H15/10/24 (金)		
		第7回	H15/10/15 (水)				
		住民参加部会		ダムWG		3ダムサブWG	
第28回	H16/2/26 (木)	第1回	H15/2/24 (月)	第1回	H16/7/11 (日)	第1回	H16/8/7 (土)
第29回	H16/5/8 (土)	第2回	H15/3/27 (木)			川上ダムサブWG	
第30回	H16/6/22 (火)	第3回	H15/4/11 (金)	第2回	H16/7/18 (日)	第1回	H16/8/3 (火)
第31回	H16/7/29 (木)	第4回	H15/4/18 (金)	第3回	H16/7/25 (日)	余野川ダムサブWG	
第32回	H16/8/24 (火)	第5回	H15/5/27 (火)	第4回	H16/8/19 (木)	第1回	H16/8/11 (水)
		第6回	H15/8/28 (木)				
		第7回	H15/10/23 (木)				
その他	設立会	H13/2/1 (木)	拡大委員会	H14/11/13 (水)			
	発足会	H13/2/1 (木)	提言説明会	H15/1/18 (土)			
	第1回 合同懇談会	H13/2/1 (木)	しっかりしてや!! 流域委員会	H16/2/28 (土)			
	第1回 合同勉強会	H14/4/11 (木)	ファシリテーターとの 検討会	H16/5/15 (土)			
	シンポジウム	H14/6/23 (日)					

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。

- ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
- ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。
※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。



ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。
ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、上記までお寄せ下さい。
※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。
※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。
※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務
みずほ情報総研（株）

淀川水系流域委員会 淀川部会ニュース No. 24

2004年10月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社 大阪支社

.....
研究員：吉岡、篠田、堤、熊谷、松本
事務担当：山根

〒542-0042 大阪市中央区今橋4-2-1 (大阪富士ビル8階)

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E-mail: yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源開発公団 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川課／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木部河川課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。